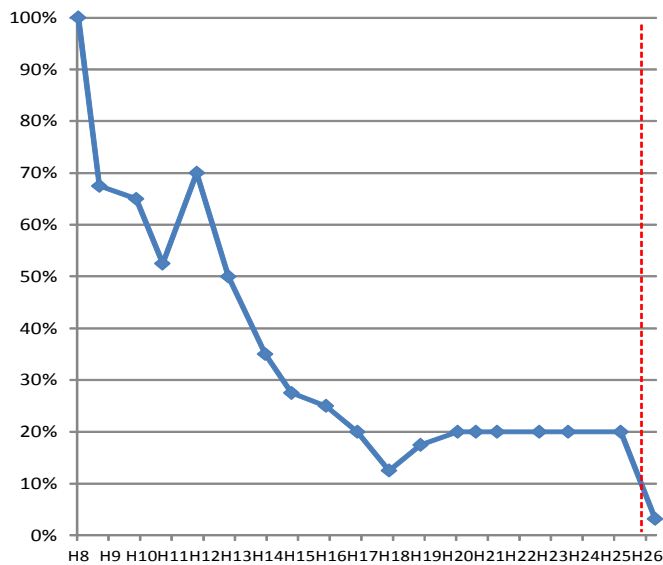


樹種名	テウチグルミ	
科 目	クルミ科	
学 名	<i>Juglans regia</i> var. <i>orientalis</i>	
分 布	中国原産で東北や長野県で栽培されている。	
樹木特性	堅果が容易に割れるようにオニグルミを改良品種したものである。 陽樹であり、山野の川沿いの斜面にふつうに見られる。増水時には冠水するような岩の多い川岸では、鈍群落をつくることがある。	
用 途	建築・器具・船舶材として利用。核果は直径 3 cm で核中の種子は食用となる。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	188 本 / 0.07ha (約 2,500 本 / ha)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木で高さ 10~20m になる。 葉は奇数状複葉で互生する。小葉は 2~4 対だが 2 対のものが多く、長さ 7~12cm の楕円形で脈の基部に星状毛がある。頂小葉はやや大きい。 4 月から 5 月に開花する。雌雄同株。雄花序は前年の枝の葉腋（ようえき）から長く垂れ下がり、雌花序は本年枝の先に直立する。 核果は直径 4~5cm のほぼ球形で灰緑色で、10 月頃熟す。種子が大きく殻が薄い、オニグルミの改良種。食用になり、手で叩くとすぐに割れる。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し植栽後夏期の高温が原因と思われる枯死が発生し、3 回に及ぶ補植を実行したが、現存率は 3 % と低い。現存木の成長量は大きくないが、それなりに生育している。	
被 害	特になし。	

テウチグルミ 現存率



【現存率】

植栽直後から原因不明の枯死が発生したため平成 9 年、10 年、11 年の 3 年間継続的に補植（計 88 本）を実施し、平成 18 年度以降については安定している。（平成 18 年度に現存率が増加したのは、枯死したと判定したものが、ぼう芽により復活したためである。）

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 3.2%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

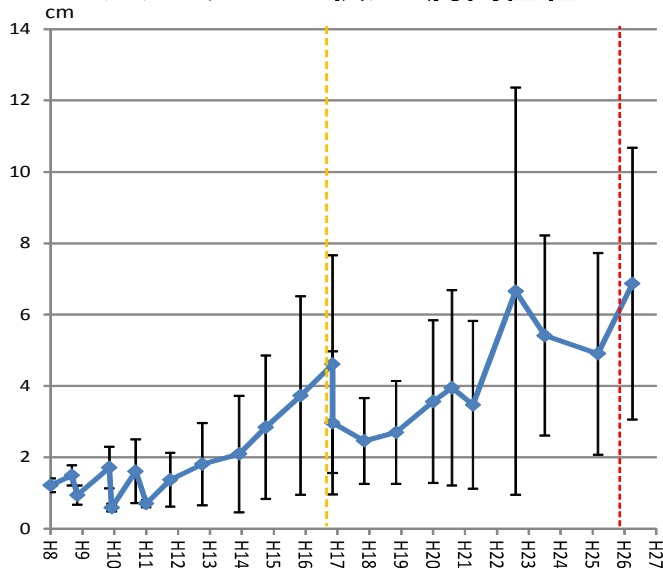
現存木はそれなりに成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 6.87 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

テウチグルミ 根元・胸高直径



【樹 高】

現存

木はそれなりに成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 5.37mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

テウチグルミ 樹高

